



お客さま社員の命を守る運行体制を強く求める!

2019年申31号団体交渉報告(7月14日開催)

新潟地本は7月14日2019年度申31号「お客さま、社員の命を守る運行体制の確立を求める申し入れ」団体交渉を行いました。これは2020年8月28日、羽越本線3Mがあつみ温泉～五十川駅間の黒滝トンネルを通過中、脱落した可動ブラケットが運転台前面ガラスに衝撃し、飛散したガラスによって運転士が負傷する事故について原因と再発防止策について、メンテナンスを行う設備社員からの問題意識も加えて申し入れを行いました。

1. 今回発生した事故について原因を明らかにすること。

回答. 本事象は、がいし金具が腐食して破断し、可動ブラケットが列車前面ガラスと衝撃したものである。

(組合)腐食の原因はなにか。

(会社)製造過程の熱処理が不適切。当社が求める仕様を満たしていなかった。責任は納入会社が負い、品質確認を求めることで対策を講じる。

(組合)前面ガラスについてはどうか。

(会社)運転士が飛散した前面ガラスにより負傷したことから飛散防止フィルムを貼った。新潟支社管内ではSL, DL以外設置された。

(組合)ユニオンはリスクに対する未然防止の問題提起をしてきた。気付きは現場にあり、耳を傾けること。

(会社)了解した。

2. 事象発生後に行った緊急対策とその結果を明らかにすること。

3. これまでの点検方法と点検周期の課題について明らかにすること。

(会社)同種ポリマーがいしを全部点検し異常箇所は取り替えた。当該社製の箇所は判明していて約800個を2023年3月10日までに交換を完了させる。

4. 今回の事象を受けて再発防止のためのメンテナンス体制の確立を①点検方法②点検周期③要員体制④直轄・外注区分のあり方などの視点で明らかにすること。

(会社)全てのがいし交換以降も検査点検は外注会社が行う。原因が特定されているのでそれが取り除かれれば終わりである。再発はない。

安全・安心して働ける労働環境を東日本ユニオンで実現しよう!